

あ こう ほう こ ふん ぐん
阿光坊古墳群Ⅳ
-整備に係る発掘調査報告書-

2015 年 3 月

序

おいらせ町には、周知の埋蔵文化財包蔵地が40以上あり、阿光坊古墳群が造営された7世紀～9世紀の集落が、奥入瀬川左岸に集中して確認されています。東は日ヶ久保から西は洗平まで広範囲に集落が点在し、その集落の代表が阿光坊古墳群に葬られたと推測されています。青森県では縄文期の遺跡が多く発掘されておりますが、古代史については謎にまつまれています。そういう意味では、おいらせ町阿光坊古墳群の発掘調査により古代史の貴重な情報を得ることができています。

この報告書が文化財の保護保存のために多くの方に活用され、埋蔵文化財の保護に対する関心と理解をいただく資料となれば幸いです。

この度の発掘調査事業にあたり、ご協力・ご指導ご助言を賜りました関係機関の方々に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査に携わられた皆様のご苦勞にも心から感謝申し上げます、刊行のご挨拶といたします。

平成27年3月

青森県おいらせ町教育委員会

教育長 福津 康隆

例 言

- 1 本報告書は平成26年度に実施した史跡阿光坊古墳群整備事業に係る文化財発掘調査報告書である。下記遺跡の調査報告を収録している。
史跡阿光坊古墳群（十三森（2）遺跡）
- 2 調査は平成26年度国宝重要文化財等保存整備費補助金、地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業の補助事業で実施した。
国庫補助対象額 1,600千円 うち国庫補助金 800千円 町負担額 800千円
- 3 本書で使用する方位は、座標北である。緯度・経度及び平面直角座標は世界測地形（第X系）である。水系レベルは海拔高度を示すものである。
- 4 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付している。遺物写真の縮尺は統一していない。
- 5 土壌色については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』2001年版を参考とした。
- 6 本報告に係る出土遺物及び記録資料は、おいらせ町教育委員会社会教育・体育課埋蔵文化財調査室に保管している。
- 7 発掘調査及び本報告書を作成するにあたり、下記の方々、機関から多大なる御指導・御協力を得た。ご芳名を記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）
文化庁・青森県教育庁文化財保護課（発掘作業員）市村悦子・種市美香・佐々木靖子・大前朋美・小笠原美智子・甲田せい子・吉田秀雄・高橋香織・下村春子・蓮沼貞子・田所道則・吉田史子・石田百合子・江刺家博子・地葉志津子（整理作業員）大前朋美

目次

序	
例言	
目次	
1 調査に至る経過と調査要項	1
2 調査経過	2
3 検出遺構と出土遺物	4
4 調査のまとめ	18
写真図版	22
報告書抄録	26

挿図・図版目次

第1図 史跡阿光坊古墳群位置図	1
第2図 トレンチ配置図	3
第3図 J10号墳	5
第4図 出土遺物	7
第5図 平成12年度調査図	8
第6図 既往の出土遺物	9
第7図 南側古墳配置図	10
第8図 北側古墳配置図	11
第9図 出土遺物①	12
第10図 出土遺物②	13
第11図 出土遺物③	14
第12図 出土遺物④	15
第13図 出土遺物⑤	16
第14図 出土遺物⑥	17
第15図 出土遺物⑦	18
図版1 J10号墳の調査1	22
図版2 J10号墳の調査2	23
図版3 J10号墳の調査3・出土遺物1	24
図版4 出土遺物2	25

1 調査に至る経過と調査要項

調査に至る経過と事務手続きについて

本発掘調査は、史跡阿光坊古墳群整備事業の一環として行われたものである。

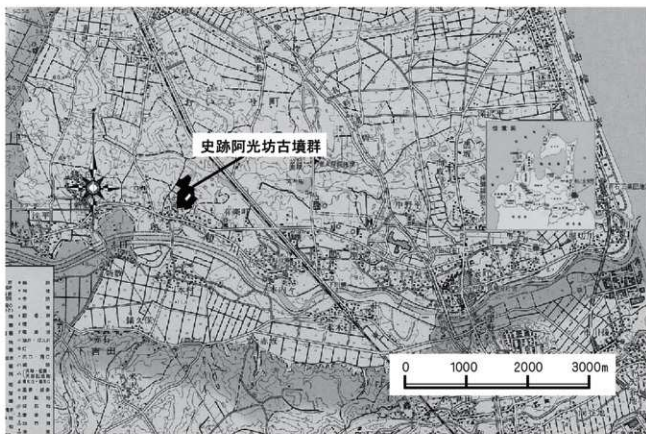
調査を計画した地点（阿光坊105-58）では、J10号墳の強調表示工事が予定されている。工事に先立ち平成12年度に行った発掘調査後の埋め戻し土を除去し、また、当時立木のために掘削ができなかった部分の掘削を行い、平面形態を明らかにし、後の工事の資料とすることを計画した。

事務手続きとしては、前年に史跡整備事業採択に向けての計画提出に続き、発掘調査に先立ち、文化財保護法第125条第1項の規定によって、平成26年4月18日付お教社第108号で史跡の現状変更等許可申請書を提出し、平成26年5月16日付26受庁財第4号の172で許可を受けた。のちに文化財保護法第99条の実施状況調査票を提出した。

調査要項

- 1 事業名 史跡阿光坊古墳群整備事業
- 2 事業者 おいらせ町
- 3 調査組織

おいらせ町教育委員会



第1図 史跡阿光坊古墳群位置図

教育長	福津 康隆	社会教育・体育課長	北向 勝
同課長補佐	馬場 太	同課長補佐	柏崎 和紀
総括主査	高橋 勝江	社会教育主事	成田 和久
主任主査	松林 拓大	主任主査	川村 由美子
主査	川原 和貴	主事	天間 広規
臨時職員	高原 由美子		
主任学芸員	小谷地 肇 (調査担当)	主任主査	木村 誠 (調査担当)

4 指導機関 文化庁 青森県教育庁文化財保護課

5 遺物の保管方法 おいらせ町教育委員会が保管する。

6 報告書の刊行 おいらせ町教育委員会が刊行する。

調査方法

J10号墳の再発掘調査は、整備工事に対応するため、既往の調査で掘削された部分を露出し、未調査部分の掘削を作業員手掘りで行う。また、保存しているセクションベルトを、本遺構の築造時期と推定される9世紀末葉より確実に新しく、遺構に伴わない、915年降下とされるTo-a火山灰以降の部分除去することにより、工事の際に現況地盤から高くなりすぎないようにすることを目的とした。新たな出土遺物とこれまで出土している遺物との接合も期待された。また、整備に係る発掘調査最終年度となるため、既往の調査区の埋め戻しをすすめ、環境整備につとめた。

基本層序

I層 黒褐色土。耕作土。乾くと、褐灰色に変色する。I a層は、しまりがなくソフトである。I b層は、かたさはあるがしまりがなく、全体的に格子状の割れ目が目立つ。

II層 黒色腐植質土。粘性、湿性があり、多少かたさはあるが、全体的にソフトである。細～中粒の浮石を微量に混入している。

III層 黒褐色土。粘性、湿性に欠け、しまりなくソフトである。下位のIV層を多量に混入している。下位のIII b層はIV層の混入量が多く、暗褐色浮石質土となっている。

IV層 オリーブ褐色浮石。中粒浮石層である。細～中粒砂質浮石で、しまりなくソフトである。本層は侵食によりレンズ状の堆積を示している。

V層 暗褐色浮石質土。漸移層である。粘性、湿性があり、かたくしまっている。本層中には、下位層を粒子状及びブロック状に多量に混入し、V b層ほどブロック状の混入量が多い。

VI層 黄褐色浮石質ローム。本層は八戸火山灰層最上層のローム層に相当する。本層には径2～5mmの浮石がかなり混入している。

VII層 黄褐色浮石。本層は八戸火山灰層第VI層に相当する。径2～6mmの浮石が密集する。本層下位には八戸火山灰層第V～I層相当層が堆積し、さらに高館火山灰層が堆積している。

2 調査経過

5月27日より調査を開始する。環境整備の後、阿光坊てづくり古墳館にて史跡の概要説明をした後J10号墳の掘削を開始した。そのほかレベル移動やトラバース作業等調査準備を進めた。

5月29日からは平成24年度に調査した3路線予定地の埋め戻しを開始した。以降、最終日まで埋め戻しと掘削を並行しておこなった。

6月10日には、墳丘上の観測が可能になり、等高線の観測作業をすすめた。

6月12日、セクション図を作成を開始した。

6月13日、セクション図を完了し、写真撮影をしたあと、セクションベルトのうち遺構に伴わない部分を除去し、本年度の写真撮影を行った。また3路線の埋め戻しも完了し、全作業を終了した。

6月15日、現地説明会を実施し、調査成果の公表をした。



第2図 トレンチ配置図

3 検出遺構と出土遺物

J10号墳の調査(第3・4図 図版1～4)

位置 阿光坊古墳群北部、第8図B1からC1にかけて、標高38mほどの、南東方向へ傾斜する斜面に位置する。平成12年度調査後埋め戻して保存していた。なお、標高・計測値に前回調査と差があるが、障害物のない状態で計測した本調査を優先する。

周溝 周溝内径9.30m～10.05m、外径12.00m～13.35m、円形である。南南東方向に、掘り残された橋状の開口部をもつ。深さは確認面から0.95mである。

墳丘 掘削・埋め戻しを経ているので、前回調査時の方が、より築造時に近い形態であると思われるが、立木を伐採し、全体を掘削できるようになったため、周溝を含めた10cm間隔の等高線作成を行った。墳丘の最下点37.3mから頂点38.673mまで、1.373mである。

堆積土 Bセクション東側を除き、最下層は八戸火山灰層由来のブロックなどを含む人為堆積層で、埋め戻して床としたか、墳丘の崩落土ととらえられる。中位やや下層には古代の降下火山灰、To-a、B-Tmを含む。その上層は、黒色から黒褐色の自然堆積層である。

主体部 今回は再掘削はしなかったが、第5図に再掲したように、円形土壌の主体部をもつ。類別は未だみられないが、上層の1・6層は攪乱を受けている可能性はあるが、それ以外乱れはなく、床面には2ヶ所小ピットが確認されている。墳丘を構築した後掘削したものと考えられ、南側の7・8世紀代に作られた古墳は、埋葬部構築後、周溝を掘り墳丘を盛ったと考えられているため、埋葬の順序が逆転している。

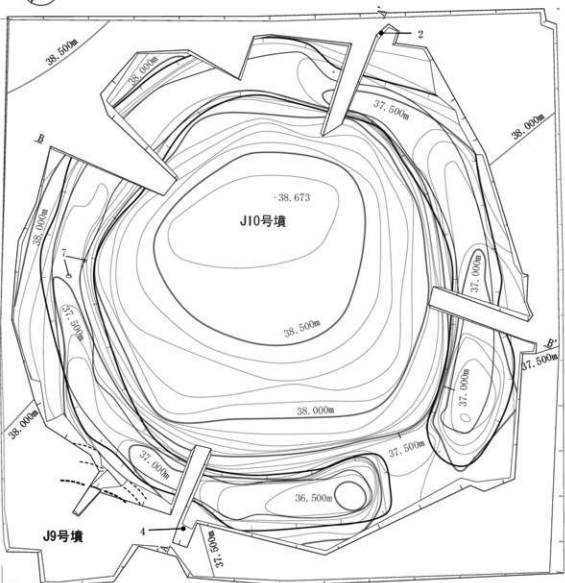
重複 J9号墳周溝を切り、J6号墳に切られていると前回報告している。今回はJ6号墳側の掘削を行わなかったため、前回の断面観察を踏襲しJ6号墳に先行すると考える。J9号墳とは近接して周溝が掘られており、切りあいについては確認できなかったが、周溝を交差せずに、古墳の存在を意識して作られた様子がみられるため、近い時期の構築と推定される。

出土遺物 これまでに、明らかな副葬品は出土しておらず、外表に供えられた供獻品として、須恵器の大甕・長頸瓶、土師器杯、耳皿、砥石が出土している。また、主体部覆土から釘が出土している。このうち須恵器大甕は、小片に打ち砕かれ、墳丘から周溝にかけ散布されていた。

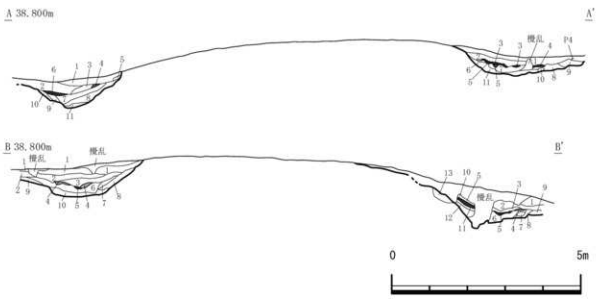
本調査では、須恵器・土師器破片と砥石が出土した。一部は前述の大甕と接合したほか、同一個体の破片も出土した。それ以外のものを図示した。1の須恵器長頸瓶口縁部は、形態及び胎土観察により、第6図の長頸瓶同様、五所川原産とみられるものである。しかし、頸のすばまった部分の径が、今回出土したものが細く異なり、別個体である。4～6の坏破片は、概ね、築造されたと推定される9世紀代のものと見られる一方、2の球胴甕頸部付近破片と、3の小型壺破片は明らかに時期が遡り、7～8世紀代のものとみられ、周辺に当該期の遺構が存在する可能性がある。7は、多方面から打撃が加えられ砕かれた砥石であり、割れた複数破片が接合したものである。土器をばらばらにする行為同様、打ち砕いて供えたものとみられる。前回調査出土の砥石破片とは接合はしなかったが、同一個体の可能性がある。

小結 前回調査時に、掘削できなかった部分を掘削し、墳形を明らかにできた。既往の出土遺物に接合する破片等は数点あったが、復元には至らなかった。

X67929.312
Y45951.118
Z39.513



X67915.153
Y45946.229
Z38.245



第3図 J10号墳

十三森 (2) 遺跡 10号墳 A-A' 南

層位	土壌の色・色調	土質	混入物・その他
第1層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	バミス含む 含む しまりあり
第2層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	バミス微量含む ローム粒微量含む しまりあり
第3層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	バミス含む ローム粒少量含む しまりあり
第4層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	10YR5/3の火山灰 (To-a) 含む しまりあり
第5層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第6層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/4の火山灰 (B-Tm) 含む しまりあり
第7層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	φ5～10mmのバミス少量含む しまりあり
第8層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒中量含む バミス含む しまりあり
第9層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	φ10mmのバミス含む しまりあり
第10層	にぶい黄褐色土 10YR5/4	粘土	黒色土混入 しまりあり
第11層	明黄褐色土 10YR6/6	粘土	黒色土混入 バミス含む しまりあり

十三森 (2) 遺跡 10号墳 A-A' 北

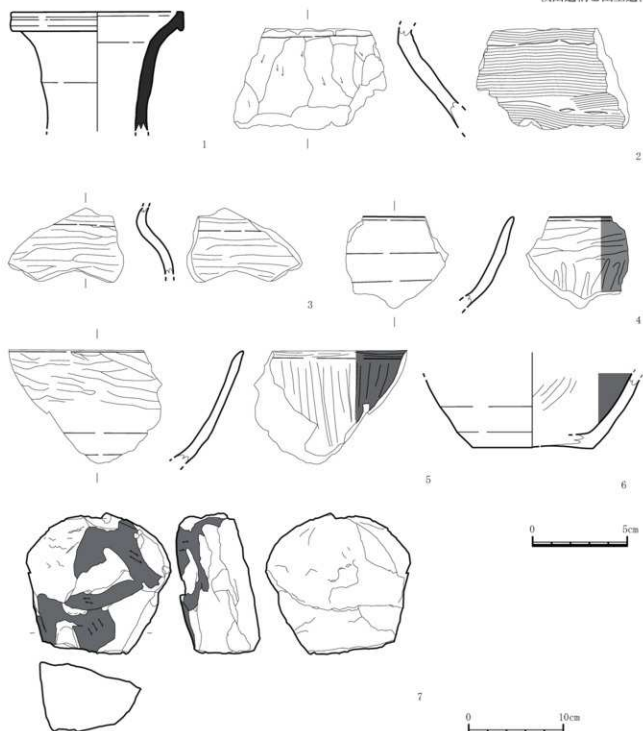
層位	土壌の色・色調	土質	混入物・その他
第1層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	バミス含む しまりあり
第2層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第3層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/4の火山灰 (B-Tm) 含む しまりあり
第4層			3層対応
第5層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR5/3の火山灰 (To-a) 含む しまりあり
第6層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第7層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒少量含む しまりあり
第8層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒多量混入 しまりあり
第9層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	ローム粒含む しまり弱
第10層	黄褐色土 10YR5/6	粘土	しまり強
第11層	褐色土 10YR4/4	粘土	黒色土混入 バミス含む しまりあり

十三森 (2) 遺跡 10号墳 B-B' 西

層位	土壌の色・色調	土質	混入物・その他
第1層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	バミス含む しまりあり
第2層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	上層より暗い しまりあり
第3層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒含む バミス含む しまりあり
第4層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/6の火山灰 (B-Tm) 含む しまりあり
第5層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/2の火山灰 (To-a) 含む しまりあり
第6層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	砂粒含む しまりあり
第7層	黒色土 10YR2/1	シルト	バミス含む 砂粒含む しまりあり
第8層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	粘土混入 しまり弱
第9層	黄褐色土 10YR5/6	粘土	黒色土混入 しまりあり
第10層	明黄褐色土 10YR6/6	粘土	黒色土混入 しまりあり

十三森 (2) 遺跡 10号墳 B-B' 東

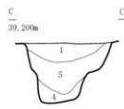
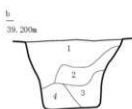
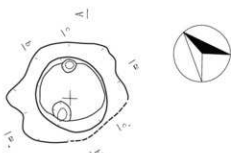
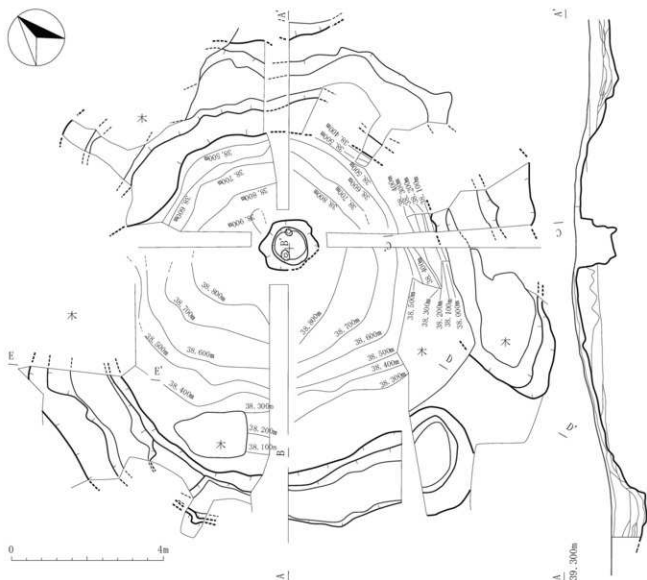
層位	土壌の色・色調	土質	混入物・その他
第1層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第2層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	バミス含む しまりあり
第3層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	バミス・岩片微量含む しまりあり
第4層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR3/4の火山灰 (B-Tm) 含む しまりあり
第5層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR5/3の火山灰 (To-a) 含む しまりあり
第6層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	バミス含む ローム粒含む しまりあり
第7層	明黄褐色土 10YR6/8	粘土	ロームブロック
第8層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	バミス含む ローム粒含む しまりあり
第9層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	バミス含む ローム粒含む しまりあり
第10層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	バミス含む しまりあり
第11層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒含む しまりあり
第12層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	φ2mmのバミス含む ローム粒混入 しまりあり
第13層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	φ16～20mmのバミス含む 墳丘



NO	器種	層位	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
1	長頸瓶	表土	須恵器	(9.1)	—	—	ロクロ調整	ロクロ調整	胎土赤褐色 五所川原産 と思われる
2	球胴壺	1層	土師器	—	—	—	ケズリ	ナデ	P4
3	小型壺	覆土	土師器	—	—	—	ミガキ	ミガキ	PX
4	環	床	土師器	—	—	—	ロクロ調整	ミガキ→黒色処理	P8
5	環	覆土	土師器	—	—	—	ロクロ調整→口唇 部辺ミガキ	ミガキ→黒色処理	PX
6	環	覆土	土師器	—	—	(6.5)	ロクロ調整	ミガキ→黒色処理	PX

NO	器種	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	備考
7	砥石	周溝下層	14.8	15.4	7.2	2,060	凝灰岩	接合

第4図 出土遺物



110号棟 99土坑注記

- 層位 土層色・色調
- 第1層 黄褐色土 10YR2/3
- 第2層 褐色土 10YR4/6
- 第3層 黑褐色土 10YR2/3
- 第4層 黒色土 10YR1, 7/1
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4
- 第7層 黑褐色土 10YR2/3
- 第8層 黒色土 10YR1, 7/1

土質 薪人物・その他

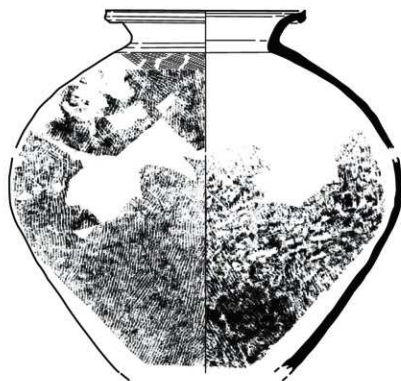
- シルト 直径1~20mmのバミス多量 ローム泥多量 褐色土(10YR4/6)少量
- シルト 直径1~5mmのバミス多量 ローム粒多量 しまり樹
- シルト 直径1~5mmのバミス多量 黒色土(10YR1, 7/1)多量
- シルト 直径1~5mmのバミス少量 しまりややぶ
- シルト 直径1~20mmのバミス多量
- シルト 直径1~5mmのバミス少量 ローム粒少量 しまり樹
- シルト 直径1~5mmの明黄褐色土(10YR6/8)少量 ローム粒少量 直径1~5mmのバミス少量
- シルト 直径5mmの明黄褐色土(10YR6/8)ブロック しまり樹

第5図 平成12年度調査図

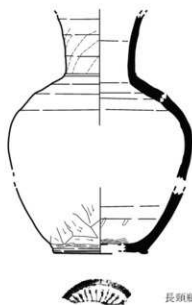


砥石

釘



須恵器大甕



長頸瓶



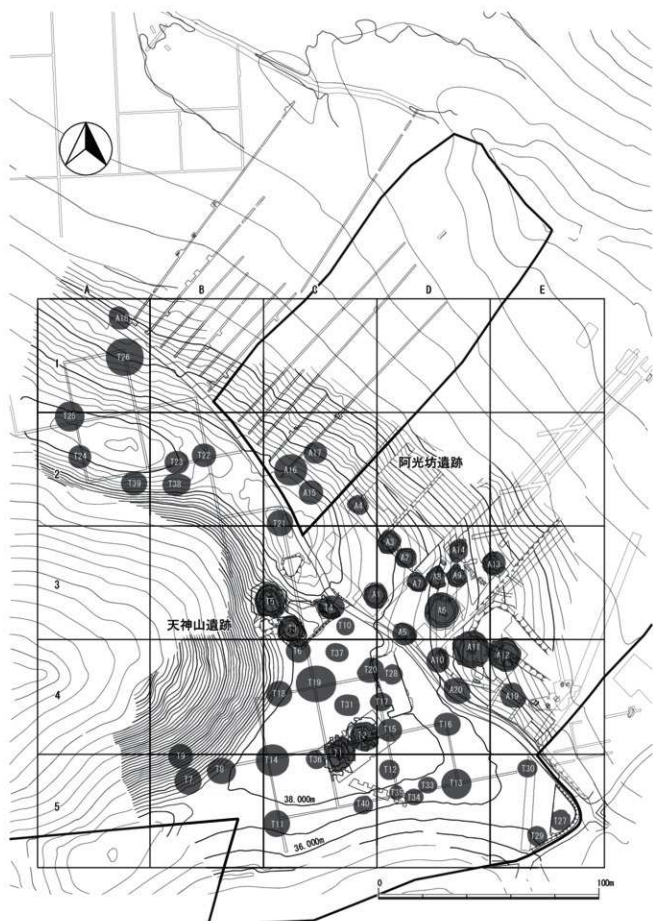
坏



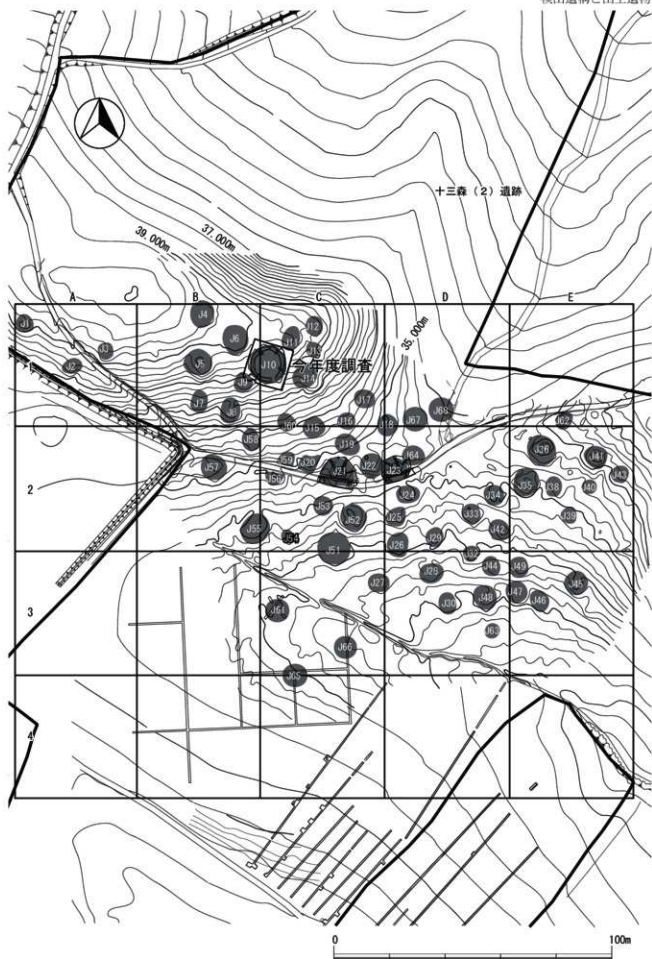
耳皿



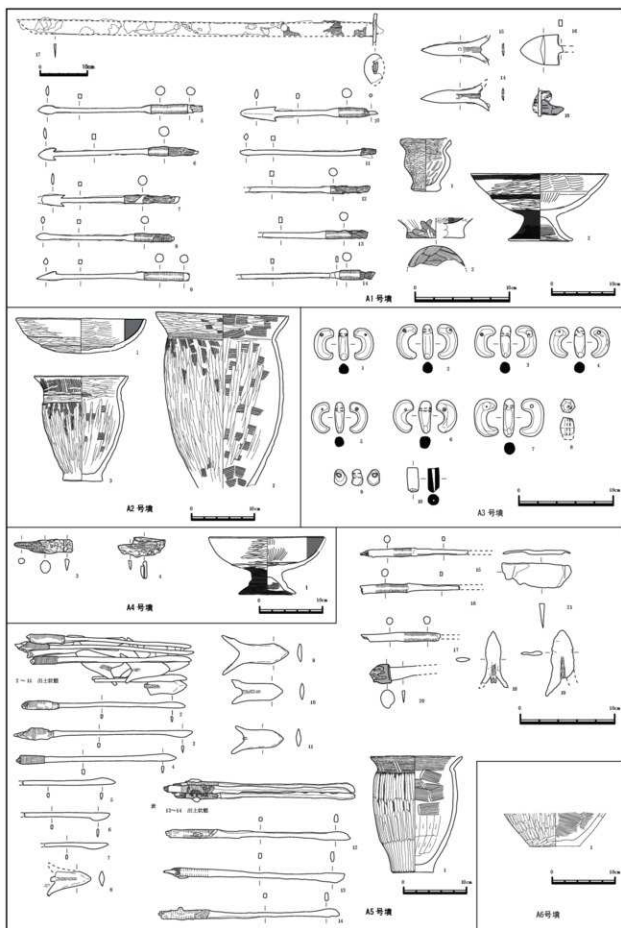
第6図 既往の出土遺物



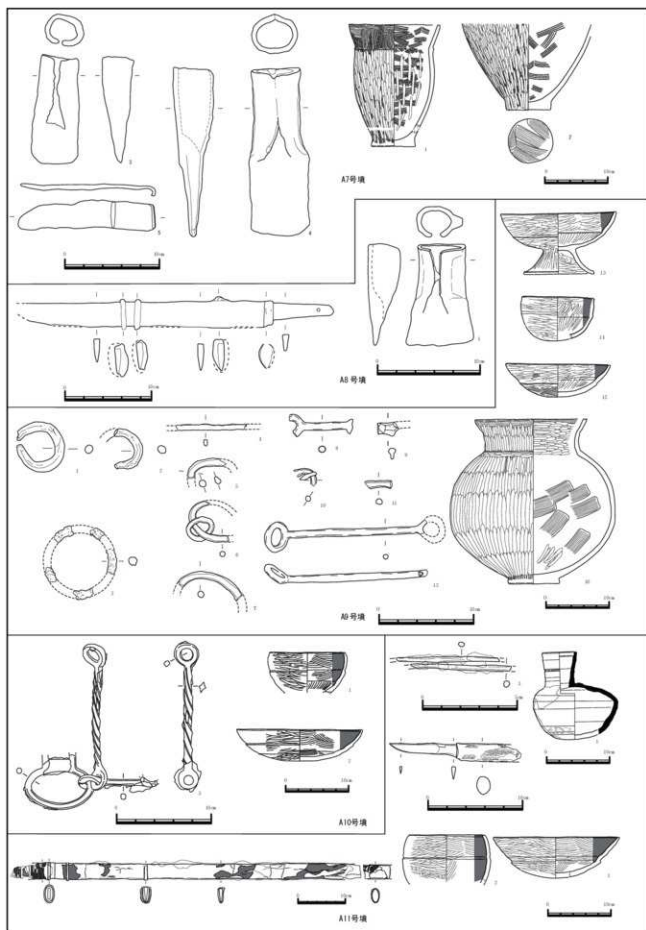
第7図 南側古墳配置図



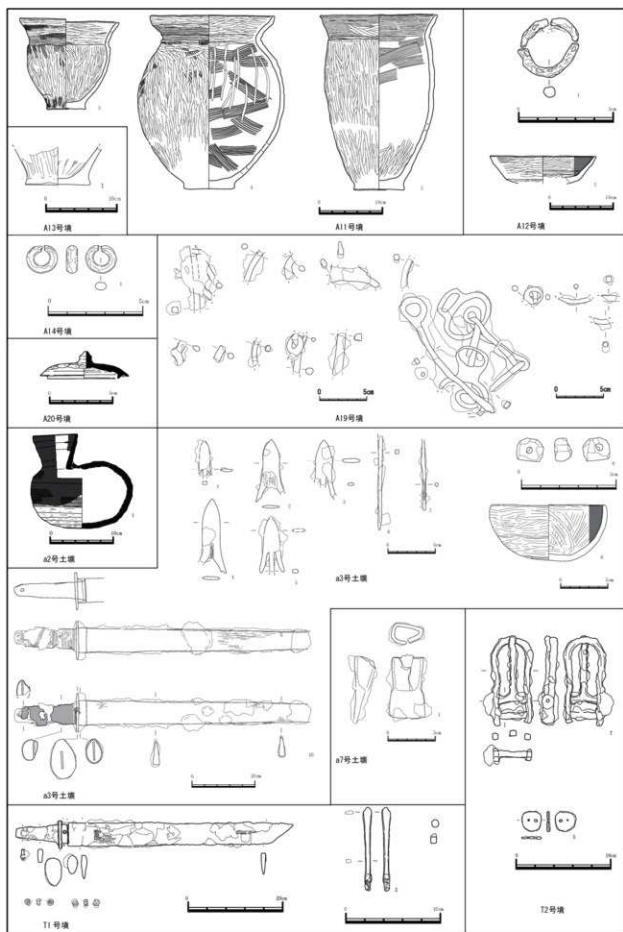
第8図 北側古墳配置図



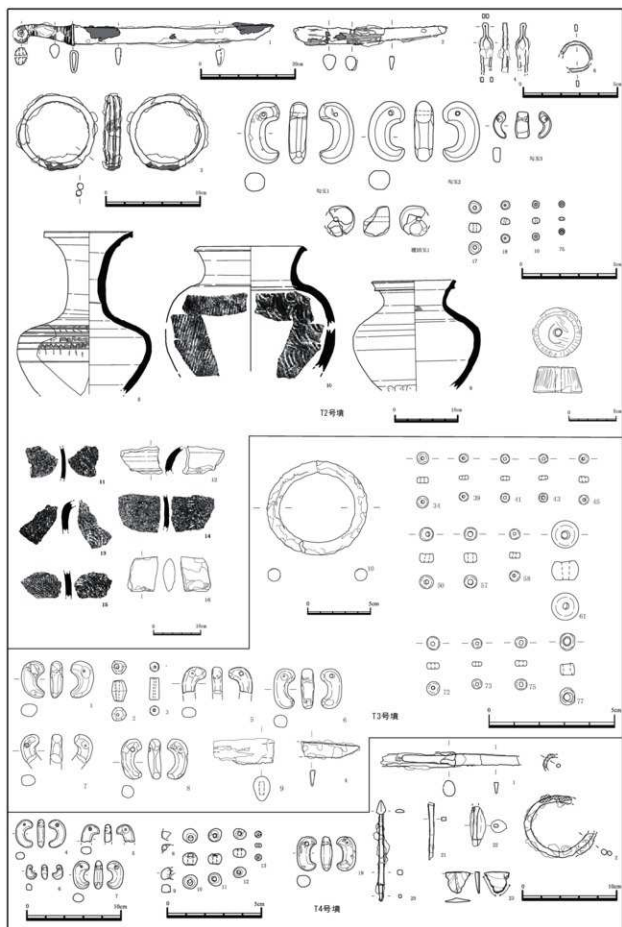
第9図 出土遺物①



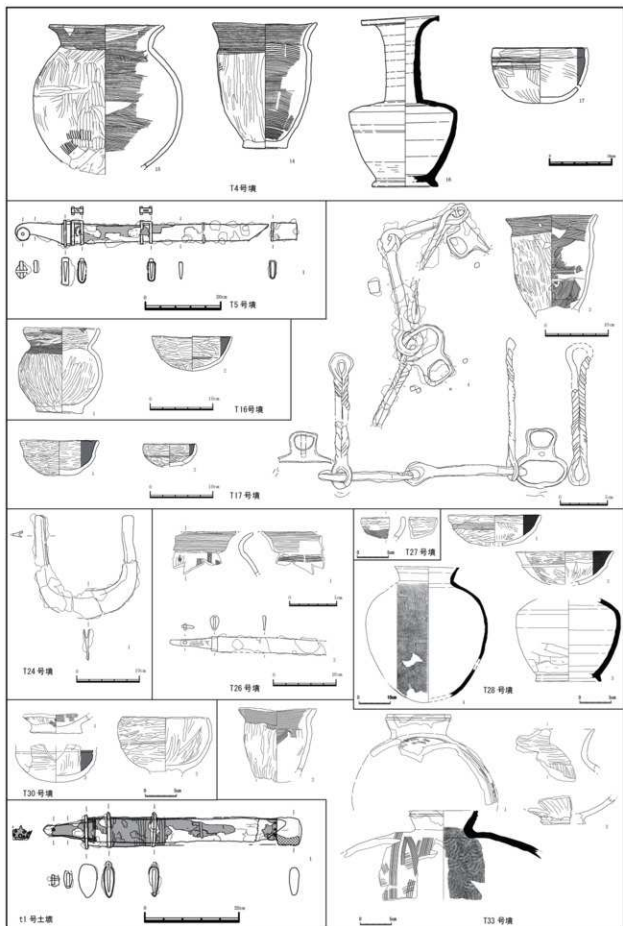
第 10 図 出土遺物②



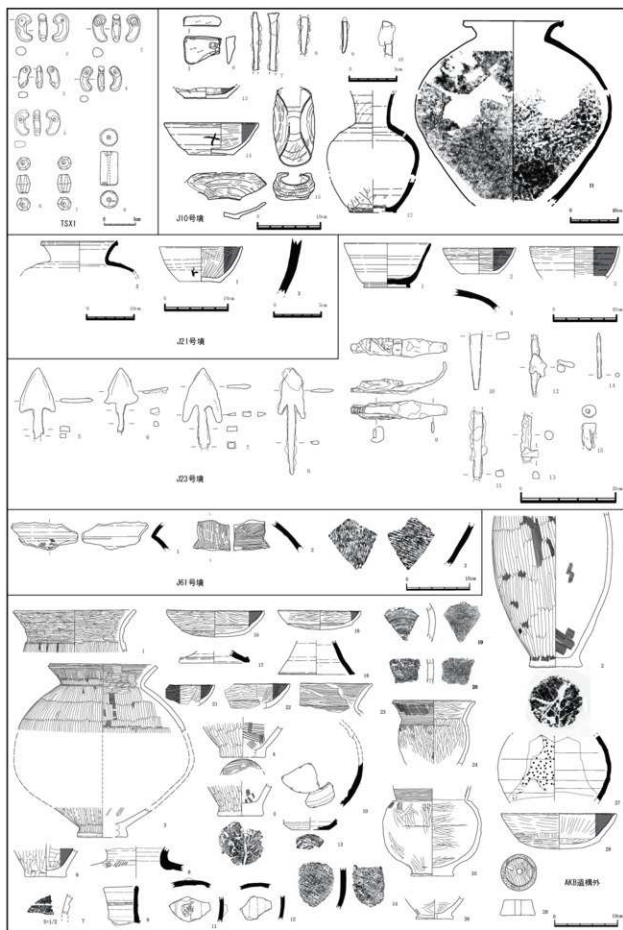
第 11 図 出土遺物③



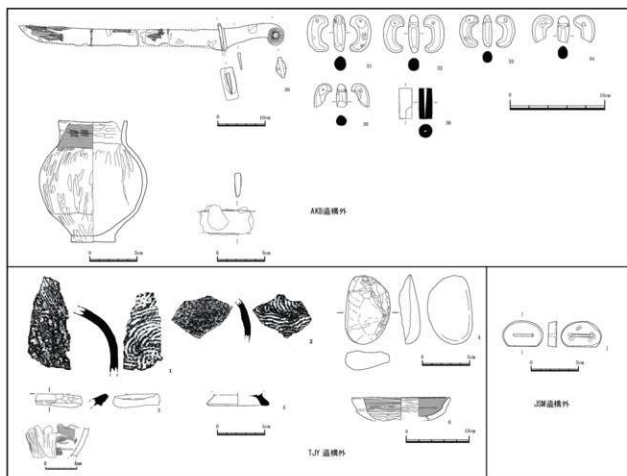
第 12 図 出土遺物④



第 13 図 出土遺物⑤



第 14 図 出土遺物⑥



第15図 出土遺物⑦

5 調査のまとめ

平成22年度より開始した整備に係る発掘調査は今年度で終了となる。当面の最終調査となるため、4次の調査を概観する。

阿光坊遺跡では、未調査地点にA19・20号墳を確認した。北側の十三森(2)遺跡では墳丘が認識できる以外に、墳丘がみられない67・68号墳が確認され、平成12年度調査で確認されているJ64号墳例からも、さらに多くの古墳が存在することは確実である。

4次の調査によって、新たに確認された末期古墳は、南側(第7図)でA19・A20、T27～T40の15基²¹¹と、北側(第8図)でJ67・J68の合計17基である。既往の調査で確認されていた108基と合わせ125基となった。²¹²南側の天神山遺跡で平成22年度に実施した電気探査により、さらに18基の未発見古墳が存在する可能性があると考えられた。実際に先に挙げたように、トレンチ調査によって高い密度で古墳が分布していることが確認された。面的な調査がなされている阿光坊遺跡の遺構密度で分布していると仮定すれば、200基程の群集墳と推定される。本発掘調査によって全容が明らか古墳は21基であり、100基以上が保存されている。

出土遺物は、トレンチ調査の上面確認であるため、多くの出土を見なかったが、これまで出土していなかった須恵器横瓶や、時期が限定される蓋坏の蓋など、多くの古墳とともに、良好な状態でこれらの遺物も保存されていることが改めて確認された。

今年度の調査ではJ10号墳周溝出土遺物に古墳築造の時期と考えられる9世紀末葉より明らかに古い遺物が含まれており、周辺に9世紀以前の古墳が存在する可能性がある。

中野平遺跡をはじめ、周辺には7世紀から9世紀に営まれた集落跡が存在し、8世紀代の住居跡も調

No.	主体部				周囲 (m)						遺物		位置		
	埋葬部 (m)				最大値を計測						副葬品	供献品			
	長さ	幅	深さ	形態	主軸方向	外径	内径	幅	深さ	形態					
A1	2.30	0.80	0.58	長方形	N 51	W	7.80	5.40	1.50	0.48	円	刀	○	第780C3	
A2	1.78	0.82	0.60	長方形	N 57	W	6.60	4.56	1.20	0.20	円	○	○	第780D3	
A3	—	—	—	—	N	—	W	7.70	5.10	1.70	0.25	円	●	第780D3	
A4	1.76	0.76	0.40	長方形	N 73	W	6.60	5.00	0.90	0.20	(円)	■	○	第780C2	
A5	2.70	1.80	0.40	長方形	N 63	W	7.80	5.90	1.30	0.21	(円)	■	○	第780D3	
A6	2.30	1.30	0.60	長方形	N 62	W	12.10	7.50	2.60	0.60	円	●	●	第780D3	
A7	2.00	1.10	0.24	長方形	N 48	W	6.90	4.67	1.00	0.35	馬蹄	■	○	第780D3	
A8	2.30	1.10	0.48	長方形	N 51	W	7.80	4.82	2.20	0.10	丸	刀	■	第780D3	
A9a	1.90	1.00	0.48	長方形	N 59	W	7.40	4.40	1.20	0.37	馬蹄	●	○	第780D3	
A9b	2.10	1.00	0.65	長方形	N 68	W	—	—	—	—	—	●	○	第780D3	
A10	—	—	—	—	—	—	(6.90)	5.50	1.90	0.18	(馬蹄)	○	■	第780D4	
A11	2.55	1.80	0.50	長方形	N 65	W	12.60	8.50	2.60	0.50	円	刀	■	○△	第780D3
A12	1.70	1.50	0.20	長方形	N 68	W	11.20	7.70	2.20	0.59	円	●	○	第780E4	
A13	—	1.25	0.28	不明	N 57	W	7.70	4.08	1.75	0.37	丸	○	○	第780D3	
A14	2.30	0.90	0.21	長方形	N 46	W	—	5.80	1.50	0.27	丸	●	○	第780D3	
A15	—	—	—	—	—	—	8.00	—	—	—	—	—	—	第780C2	
A16	—	—	—	—	—	—	5.60	4.70	1.20	0.55	—	—	—	第780C2	
A17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C2	
A18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780A1	
A19	—	—	—	—	N 72	W	8.84	6.70	1.44	—	—	—	■	第780E4	
A20	—	—	—	—	—	—	(11.00)	(8.60)	1.50	—	—	—	△	第780D4	
a1	1.90	0.90	0.38	丸丸長方形	N 46	W	—	—	—	—	—	—	—	第780D3	
a2	1.60	0.95	0.38	不正長方形	N 68	W	—	—	—	—	—	—	△	第780D3	
a3	1.85	1.10	0.30	不整長方形	N 52	W	—	—	—	—	—	刀	○●■	第780E4	
a4	1.55	0.80	0.27	長楕円形	N 14	W	—	—	—	—	—	—	—	第780E4	
a5	1.46	0.83	0.19	長楕円形	N 59	W	—	—	—	—	—	—	—	第780E4	
a6	2.37	1.38	0.55	長方形	N 71	W	—	—	—	—	—	—	—	第780E4	
a7	1.55	0.90	0.32	長楕円形	N 44	W	—	—	—	—	—	■	—	第780E4	
T1	2.23	1.65	0.80	長方形	N 31	W	10.00	6.65	1.89	0.79	円	刀	■	第780C4	
T2	2.38	1.26	1.20	長方形	N 36	W	9.42	6.50	1.76	0.94	円	刀	●●	○△■	第780C4
T3	2.86	1.45	0.96	長方形	N 50	W	7.90	5.40	1.40	0.40	丸	●●	○	第780C3	
T4	2.45	1.10	0.80	長方形	N 28	W	(6.70)	(4.50)	2.40	0.60	円?	●●	○△	第780C3	
T5	2.85	1.15	0.50	長方形	N 6	W	10.26	7.28	2.14	0.54	円	刀	—	第780B3	
T6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C4	
T7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780B5	
T8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780B5	
T9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780B4	
T10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C3	
T11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C5	
T12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780D5	
T13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780D5	
T14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780B4	
T15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780D4	
T16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	第780D4	
T17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○■	第780C4	
T18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C4	
T19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C4	
T20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C4	
T21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C2	
T22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C2	
T23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780C2	
T24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780A2	
T25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780A1	
T26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	刀	○	第780A1	
T27	—	0.68	—	長方形?	N 120	W	6.30	3.70	1.88	—	—	—	○	第780E5	
T28	—	—	—	—	—	—	6.50	4.82	1.98	—	—	—	○△	第780D4	
T29	—	—	—	—	—	—	(8.55)	—	2.00	—	—	—	○	第780E5	
T30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780E5	
T31	—	—	—	—	—	—	(8.00)	(4.00)	1.34	—	—	—	—	第780C4	
T32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
T33	—	—	—	—	—	—	(7.10)	(5.40)	1.16	—	—	—	○△	第780D5	
T34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	第780D5	
T35	—	—	—	—	—	—	3.90	2.90	0.75	—	—	—	—	第780D5	
T36	—	—	—	—	—	—	(10.50)	(8.60)	0.99	—	—	—	—	第780C4	
T37	—	—	—	—	—	—	(7.40)	(6.40)	1.07	—	—	—	—	第780C4	
T38	—	—	—	—	—	—	9.30	7.30	1.13	—	—	—	—	第780B2	
T39	—	—	—	—	—	—	(6.40)	(4.00)	1.30	—	—	—	—	第780A2	
T40	—	—	—	—	—	—	(7.40)	(6.00)	0.83	—	—	—	—	第780C5	
11	1.30	0.64	0.31	長方形	N 33	W	—	—	—	—	—	刀	—	第780C3	



	主体部					周圍 (m)					塗物		位置
	埋葬部 (m)					最大値を計測					刷弊品	供給品	
	長さ	幅	深さ	形態	主軸方向	外径	内径	幅	深さ	形態			
主体部					周圍 (m)					刷弊品	供給品		
埋葬部 (m)					最大値を計測								
	長さ	幅	深さ	形態	主軸方向	外径	内径	幅	深さ	形態	刷弊品	供給品	位置
11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880A1
12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880A1
13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880A1
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880B1
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880B1
16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880B1
17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880B1
18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880B1
19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880B1
110	1.50	1.35	0.93	円形	—	13.35	10.05	2.60	0.95	馬蹄 ■	○△		第880C1
111	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
112	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
113	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
114	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
116	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
117	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
118	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
119	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
121	2.70	0.83	0.30	長方形	N 32 W	12.70	8.50	1.00	0.85	馬蹄	○△		第880C2
122	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
123	—	—	—	—	—	10.00	7.10	2.25	0.80	円?	○△■		第880D2
124	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
125	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
126	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
127	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C3
128	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D3
129	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
130	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D3
131	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			欠番
132	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
133	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
134	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D2
135	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
136	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
137	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			欠番
138	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
139	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
140	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
141	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
142	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
143	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
144	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E3
145	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E3
146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E3
147	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D3
148	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E3
149	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E3
150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			欠番
151	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
152	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
153	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
154	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
155	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
156	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
157	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
158	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E2
159	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C2
160	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C1
161	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C3
162	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880E1
163	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880D3
164	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			○△
165	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C3
166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第880C3
167	—	—	—	—	—	(11.00)	(8.50)	1.15	—	—			第880D1
168	—	—	—	—	—	—	(5.00)	1.97	—	—			第880D1

土師器	○
須恵器	△
鉄器	■
馬蹄	●

査されているが、古墳群で当該期と考えられる古墳は少なく、調査地域の偏りに起因すると考えているが、掘削を伴う調査でなければ確認できず、将来所属時期の確認は必要になると思われる。

J10号墳の調査成果については、墳丘の構築方法の確認ができたことと、主体部の検出ができたことが大きな成果である。墳丘をもつ末期古墳の調査はこれまでに、三沢市平畑(3)遺跡、平畑(5)遺跡、青森市三内丸山遺跡で報告があるが、主体部は、平畑(3)遺跡は大きく攪乱を受け確認されず、平畑(5)遺跡では、精査したにもかかわらず見つかっていないため、掘削せず、地表面に置き、盛り土をしたという推測をしている。三内丸山遺跡では、落ち込みを確認したが、掘削調査はしていない。

J10号墳例は数少ない9世紀代の末期古墳で主体部を調査した例である。²¹⁾円形土壌となり、それまでの伸展葬から、屈葬、もしくは再葬に変化しており、一般化できるものか類例を待たなければならないが、少なくとも同様の主体部の場合、当時の地表面からの掘削が50cmであり、黒色腐植土層(基本層序ⅠからⅡ層)に留まっており、すでに墳丘が削平されてしまっている場合、周溝のみが検出されることとなる。周溝のみ検出される例、いわゆる円形周溝と呼ばれるものが末期古墳であった可能性が極めて高いという傍証となる。

未解明な部分も多く残っているが、当面の調査を終え、史跡公園として整備し、保存する。今後史跡現地や展示施設を利用いただき、ご指導・ご助言くださるようお願い申し上げ、報告を終えたい。

註1 T32号墳が平成22年度調査で確認されたが、平成23年度再調査したところ古墳以外の遺構であったため欠番になっている。

註2 平成24年度の発掘調査報告書では124基としたが、125基に訂正する。土坑が8基確認されており、副葬品の出土から埋葬施設とらえられるものが5基含まれるが、古墳の数には入れていない。

註3 平成26年度に青森県埋蔵文化財調査センターが調査した、東北町東道ノ上(3)遺跡で9世紀代末期古墳の調査がなされ、長方形の主体部が検出された。詳細は報告書待つかないが、本例とは大きく異なる。

《引用参考文献》

- 三沢市教育委員会 1992『平畑(5)遺跡Ⅱ』三沢市埋蔵文化財調査報告書第9集
 三沢市教育委員会 1996『平畑(3)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第14週
 青森市教育委員会 1994『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第23集
 青森県教育委員会 2012『三内丸山遺跡XX』青森県埋蔵文化財調査報告書第338集
 おいらせ町教育委員会 2007『阿光坊古墳群発掘調査報告書』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第1集
 おいらせ町教育委員会 2011『阿光坊古墳群Ⅰ-整備に係る発掘調査報告書-』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第11集
 おいらせ町教育委員会 2012『阿光坊古墳群Ⅱ-整備に係る発掘調査報告書-』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第14集
 おいらせ町教育委員会 2013『阿光坊古墳群Ⅲ-整備に係る発掘調査報告書-』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第16集



調査終了状況



調査前南から



調査前北から



作業状況



埋土除去完了

図版 1 J10号墳の調査 1



セクションA南



セクションA北



セクションB西



セクションB東



セクションA南掘削状況



セクションA北掘削状況



セクションB西掘削状況



セクションB東掘削状況



完了状況南から



完了状況北から



完了状況東から

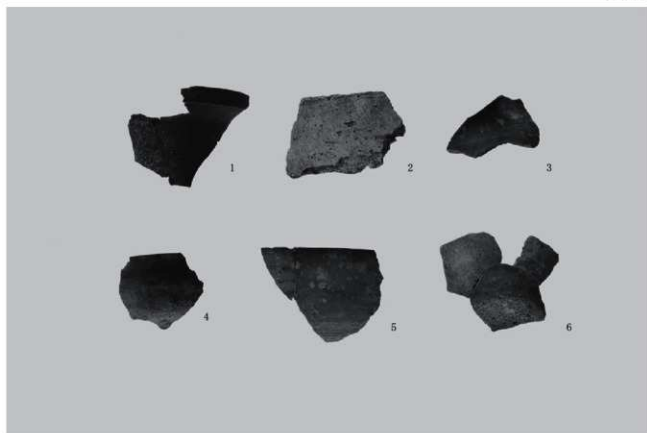


砥石出土状況



砥石

図版3 J10号墳の調査3・出土遺物1



今年度出土土器



過年度出土遺物

図版4 出土遺物2

報告書抄録

ふりがな	あこうぼうこふんぐんよん							
書名	阿光坊古墳群Ⅳ							
副書名	整備に係る発掘調査報告書							
シリーズ名	おいらせ町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	小谷地 肇 木村 誠							
編集機関	青森県おいらせ町教育委員会							
所在地	青森県上北郡おいらせ町上明堂60-6							
発行年月日	西暦2015年3月27日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じゅうさんしん 十三森 (2) いせき 遺跡	おいらせ町 阿光坊 105-58外	2412	4120	40度 36分 25秒	141度 22分 52秒	20140527 ～ 20140613	225㎡	学術調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
じゅうさんしん 十三森 (2) いせき 遺跡	墳墓	平安	末期古墳 1		砥石			
要約	阿光坊古墳群内の十三森 (2) 遺跡10号墳を強調表示工事準備のための再発掘調査を行った。平成12年度調査後の埋め戻し土の除去と、当時立木があったため未掘削であった部分の調査を行った。掘削後、土層観察用の畦を、古墳築造より新しい古代の降下火山灰To-aより上層を除去した。							

おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第20集

阿光坊古墳群Ⅳ - 整備に係る発掘調査報告書 -

発行 平成27年3月27日

編集・発行 おいらせ町教育委員会

〒039-2289 青森県上北郡おいらせ町上明堂60-6

TEL 0178-56-4276

印刷 社会福祉法人 青森県コロニー協会

青森コロニー印刷

〒030-0943 青森県青森市幸畑松元62-3

TEL 017-738-2021